市民版環境白書 2019

グリーン・ウォッチ

グリーン連合

《目　次》

序　２０１９年度グリーン・ウォッチの目的 …… 4

第１章　脱炭素社会に向けた最近の動向…… 6

第１節　気候変動問題 …… 6

1．パリ協定以降の世界の動向とCOP24…… 6
2．後手になる日本政府の対応と企業・金融界の動き…… 8
3．変化の兆しが見え始めた石炭火力発電所新規建設問題…… 10

第２節　再生可能エネルギー …… 15

1．再エネ100%に向けた世界の動きと日本の課題 …… 15
2．再エネ開発での合意形成・持続可能性の課題と解決策…… 19

第３節　地球温暖化対策の決め手　カーボンプライシング…… 22

1．カーボンプライシングとは何か…… 22
2．なぜカーボンプライシングか～現状の温暖化対策税だけでは不十分 …… 23
3．カーボンプライシングを取り巻く国内の状況…… 24
4．諸外国の導入状況とその効果…… 25
5．炭素税収入の活用方法…… 27
6．グリーン連合の提案…… 29

第２章　顕在化してきた新たな危機 ……31

第１節　プラスチック問題…… 31

1．人類は「プラスチック」にどう向き合えばよいのか？ …… 31
2．プラスチック資源循環を巡る世界の動き …… 35
3．プラスチック問題に関する国内の動き …… 39

【漫画】「グリーン・ウォッチ」2019 …… 42

第２節　気象災害と防災…… 43

1．風水害が相次いだ2018年 …… 43
2．2018年の夏は猛暑に …… 43
3．地球温暖化は極端気象を増加させる …… 45
4．データが示す地球環境の変化 …… 45
5．激甚化する災害から生き残るためには …… 46
6．日本は災害に対する国際貢献を …… 47

第３節　いまだに続く福島原発事故の災害…… 49
１．汚染水の海洋放出問題 …… 49
２．除染土再生利用・埋立方針について …… 53
３．チェルノブイリの経験から福島の今を考える …… 58
【コラム】「たらちね」震災後に開設した放射能測定所とクリニック …… 62

第３章　国内外の先進的な動き ……63

第１節　国内の動き…… 63
１．市民協働事業提案制度 …… 63
２．山形県遊佐町の少年町長・少年議員公選事業 …… 64
第２節　データ不正問題は何が間違った結果なのか？ …… 65
１．政府の政策判断の質の問題がデータ不正を生む …… 65
２．データ不正の原因は何か …… 66
３．基本的な情報公開を欠いていた技能実習生データと裁量労働制データ …… 66
４．統計調査では当然の基礎情報が公開されていなかった毎月勤労統計 …… 67
５．市民社会は何を求めるべきか …… 67
第３節　ドイツの州レベルにおける環境NGO/NPOに対する助成制度 …… 68
第４節　座談会……日本の環境NPOへの支援の現状と課題 …… 69
１．環境NPO/NGOの存在意義は何か …… 70
２．グリーン連合として、共通課題への取組を進める …… 74

活動報告 グリーン連合のこの一年の活動実績 ……78

１．４つの地域でのワークショップの開催…… 78
２．環境省との意見交換会…… 82
３．地球環境基金との意見交換会…… 83
４．要望書の提出…… 85

会員名簿…… 86
編集委員会・執筆者 …… 106

序　２０１９年度グリーン・ウォッチの目的

グリーン連合は、気候変動、生物多様性喪失、化学物質問題など様々な環境問題を克服し、すべての生命、そして暮らしや社会・経済活動の基盤である「環境」を守りながら、民主的で公正な持続可能な市民社会を築くことを目指して、日本各地で活動する環境 NPO/NGO が結集し、社会の変革を強く政治や社会に働きかけるために、2015 年 6 月に設立された市民組織で、現在 84 の市民団体が加盟している。

その活動の一環として、設立年から『市民版環境白書　グリーン・ウォッチ』を発行し、今年の 2019 年版で 4 冊目となる。もともとこの白書は、政府とは異なる視点から環境の現状や問題点を分析し、より良い解決の方向性を多くの人に知ってもらうことを目的として発行してきたが、この 4 年の間にも、私たちを取り巻く環境の悪化はますます深刻化し、格差の拡大や政治の混迷などに起因する社会の不安定さも増すばかりである。

一方、昨年 12 月にポーランドで開催された COP24 の会場で、スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさん 15 歳が、190 カ国の代表を前に、「あなた方は、自分の子どもたちを何よりも愛していると言いながら、その目の前で、子どもたちの未来を奪っています。」と述べ、子どもたちの未来のために行動するよう訴えたことが話題になった。そしてその後、世界中で彼女の行動に続く若者のデモが行われており、日本でも規模は小さかったものの、大人だけには任せておけないと若者が立ち上がっている。

こうした状況を受け、私たちも、安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な社会を実現するために、その基礎となる真実の情報を、若者を含めた多くの人たちに伝えていくことの重要性を改めて感じているところである。

2019 年版の主な内容は、次のとおりである。

第 1 章では、脱炭素社会に向けた最近の動向について述べた。気候変動問題ではパリ協定以降の世界の政府や企業の動きに比べて、日本の政策がかなり遅れている現状、そうした中でも市民の活動により石炭火力発電所の新規建設が中止されるなど変化の兆しも見え始めていること。また再生可能エネルギーについては、世界での急速な拡大に比べて日本にはまだ課題が多く、特に地域での導入に際しての合意形成の重要性について述べて

いる。さらに地球温暖化対策の有効な手段としてEUはじめ各国で導入が進んでいるカーボンプライシングについて、世界での導入状況やその使途についての紹介と併せて、不毛な議論ばかりが続く日本での早期導入を求めてグリーン連合としての提案を試みている。

第２章では､顕在化してきた新たな危機として、プラスチック問題、気象災害、福島の問題を取り上げた。プラスチックについて、従来は廃棄物問題として取り上げられることが多かったが、今回は化学物質や気候変動問題などと絡めて、人類は化石燃料由来のプラスチックとどう付き合っていくのか、その一つとして欧州で推進されている資源循環･サーキュラーエコノミーの考え方と動向、そして日本の動きについて述べた。また近年世界中で多発する気象災害の実態と、こうした災害から生き残るための方策について述べている。さらに東京電力福島第一原子力発電所事故から８年が経過する中、増え続ける汚染水や汚染土の処理は困難を極めているが、その実態はどうなのか、またチェルノブイリ事故と比較して、日本の事故後の処理や対策の何が問題なのかについて述べた。

第３章では、国内外の先進的な動きとして、市民、特に次世代との協働事業を具体的に実践している山形県遊佐町の事例を紹介した。また昨今の統計不正問題の原因とこれを防ぎ市民活動に活かすための方策について述べている。さらにEU、特にドイツでの環境団体に対する支援策を紹介した。そして最後に、日本の環境NPO/NGOへの支援の現状と課題について、グリーン連合共同代表らによる座談会の様子を紹介した。

活動報告では、グリーン連合の活動を知っていただくための資料を添付した。

この冊子が世に出るのは、平成から令和への新たな時代が始まるときである。

平成の時代は多くの進歩もあったが、それを凌駕する勢いで、環境の悪化や社会の不安定性は増し、これまでの対応では到底その勢いを止めることはできないことも明らかになってきた。厳しい状況にある環境そして社会の現実をしっかり受け止め、それに対応できる新たな価値観や社会経済の仕組みへの転換を図るための基礎情報として、グリーン・ウォッチを活用していただければ幸いである。

グリーン連合
「グリーン・ウォッチ」編集委員会